

Title	大阪市立大学第 26 回教育改革シンポジウム：テーマ：新しい入試を超えてくる学生とは?：学生・生徒の"学び"の高大接続を考える
Author	
Citation	大阪市立大学大学教育. 16 巻 2 号, p.1.
Issue Date	2019-04
ISSN	1349-2152
Type	Presentation
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学大学教育研究センター
Description	講演：第 26 回教育改革シンポジウム(2018 年 9 月 7 日開催)：「新しい入試を超えてくる学生とは?：学生・生徒の"学び"の高大接続を考える」
DOI	

Placed on: Osaka City University

大阪市立大学第26回教育改革シンポジウム

テーマ：新しい入試を超えてくる学生とは？ －学生・生徒の“学び”の高大接続を考える

日時：2018（平成30）年9月7日（金）午後1時～3時30分

場所：大阪市立大学学術情報総合センター 10階会議室

趣旨：

昨年の教育改革シンポジウムでは、2021年度入学生に適用される大学入試改革に向けて、入試をテーマに高大接続を考えました。今年は、その新しい大学入試を超えて入学してくる学生は、どのような学びを経てきたのか、それは大学の学びにどのように活かされ、接続していく可能性があるのかとの観点から、高大接続を考えてみたいと思います。

今回は、講師に、関西学院大学アドミッションオフィサーで学長特命の尾木様をお招きし、新しい大学入試とともに多くの高等学校に利用が広がる可能性のあるJAPAN e-Portfolioについて、ご講演いただきます。現在、同大学は、文科省の大学入学者選抜改革推進委託事業の5分野の内の「主体性等」分野の代表大学を務めておられ、学力の3要素の1つとされる「主体性等」のより適切な評価のための各種取り組みを進めておられます。その一環として、生徒の主体的学習活動の見える化のツールの一つである、JAPAN e-Portfolioの開発も進められています。尾木様には、高校生の主体的学びとその見える化を促進するJAPAN e-Portfolioの概要と、その活用事例や可能性について、お話をいただく予定です。

その後、本学での学びの見える化や学生の主体的・能動的学習活動推進のための取組について、コメンテーターから紹介を行った上で、学生・生徒の主体的“学び”の高大接続の可能性について、質疑や議論を行いたいと思います。

本学では、一昨年度に本学が採択された、文部科学省大学教育再生加速プログラム（AP事業）を契機として、学生の学びの成果の見える化と学修促進・支援の取り組みを、従来以上に積極的に進めています。学生の学修成果の質保証を目指して、学修成果の見える化ツール：OCU指標の開発や、学生たちの能動的で主体的な授業内外の学習活動を促進のためのOCUラーニングセンター（学修支援推進室）の立ち上げを行いました。そして、そのラーニングセンターでは、数学・英語の学修相談・支援を行っており、また、OCU指標も使った学修相談を始めようとしています。また、博士研究員やTA・SAの学生らにも積極的に関わってもらいつつ、多様な教材開発・各種のセミナー・交流企画等も行っています。

尾木様はもとより、学内外からの参加者の皆さまと、学生・生徒の“学び”の高大接続についての、議論を深め、考えてみたいと思っております。

【開会の辞】 荒川哲男 大阪市立大学理事長・学長

【講演】 「高校生の主体的学びとその見える化を促進するJAPAN e-Portfolio」

【講師】 尾木義久 関西学院大学 アドミッションオフィサー

文部科学省大学入学者選抜改革推進委託事業（主体性等分野）学長特命

【コメンテーター】 西垣順子 大阪市立大学大学教育研究センター准教授

【閉会の辞】 橋本文彦 大阪市立大学理事（教育・学生担当）・副学長、学修支援推進室長

【企画・司会】 飯吉弘子 大阪市立大学 大学教育研究センター教授、学修支援推進室副室長

